

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

1. 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律

（障害者虐待防止法）（平成23年6月17日成立、同6月24日公布、平成24年10月1日施行）

◆ 目的

（第一条）

障害者に対する虐待が障害者の尊厳を害するものであり、障害者の自立及び社会参加にとって障害者に対する虐待を防止することが極めて重要であること等に鑑み、障害者に対する虐待の禁止、国等の責務、障害者虐待を受けた障害者に対する保護及び自立の支援のための措置、養護者に対する支援のための措置等を定めることにより、障害者虐待の防止、養護者に対する支援等に関する施策を促進し、もって障害者の権利利益の擁護に資することを目的とする。

◆ 定義

（第二条）

「障害者虐待」・・・養護者、使用者、障害者福祉施設従事者等による虐待

- 養護者：障害者の身の世話を身体介助、金銭管理を行う家族、親族、同居人
- 使用者：障害者を雇用する事業主または、事業の経営担当者、その他
- 障害者福祉施設従事者：障害者自立支援法等に規定する「障害者福祉施設」
または「障害者福祉サービス事業等」に係る業務に従事する者

◆ 障害者虐待の早期発見等

（第六条）

- 一 国及び地方公共団体の障害者の福祉に関する事務を所掌する部局その他の関係機関は、障害者虐待を発見しやすい立場にあることに鑑み、相互に緊密な連携を図りつつ、障害者虐待の早期発見に努めなければならない。
- 二 障害者福祉施設、学校、医療機関、保健所その他障害者の福祉に業務上関係のある団体並びに障害者福祉施設従事者等、学校の教職員、医師、歯科医師、保健師、弁護士その他障害者の福祉に職務上関係のある者及び使用者は、障害者虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、障害者虐待の早期発見に努めなければならない。

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

2. 令和元年度 都内における養護者による障害者虐待についての状況

【障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律第 20 条の規定に基づく公表】

(平成 31 年 4 月 1 日から令和元年 3 月 31 日まで) 東京都保健福祉局

(1) 相談・通報・届出の状況

相談・通報・届出件数	349 件
虐待を受けたと判断された事例数	117 件

(2) 虐待行為の類型（重複あり）

身体的虐待	75 件	64.1%
性的虐待	3 件	2.6%
心理的虐待	26 件	22.2%
放棄・放置（ネグレクト）	28 件	23.9%
経済的虐待	21 件	17.9%

(3) 被虐待障害者の性別

	男	女	不明	合計
人数	38	79	0	117
構成割合(%)	32.5	67.5	0.0	—

(4) 被虐待障害者の年齢

	～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	不明	合計
人数	10	28	14	23	28	13	1	0	117
%	8.5	23.9	12.0	19.7	23.9	11.1	0.9	0.0	—

(5) 被虐待障害者の障害種別（重複あり）

	身体障害	知的障害	精神障害 (発達障害を除く)	発達障害	難病等
人数	38	59	38	2	3
%	32.5	50.4	32.5	1.7	2.6

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

(6) 被虐待被害者の行動障害の有無

① 強い行動障害がある (障害支援区分3 行動関連項目10点以上、または障害程度区分3 行動関連項目8点)	26人	22.2%
② 認定調査を受けてはいないが①と同程度の行動障害がある	2人	1.7%
③ 行動障害がある (①、②に該当しない程度の行動障害)	16人	13.7%
④ 行動障害がない	70人	59.8%
⑤ 行動障害の有無が不明	3人	2.6%

(7) 被虐待被害者と虐待者との同居・別居の状況

虐待者と同居	97件	82.9%
虐待者と別居	19件	16.2%
その他	1件	0.9%

(8) 虐待者の年齢

	～17歳	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不明	合計
人数	2	11	11	16	28	58	4	130
%	1.5	8.5	8.5	12.3	21.5	44.6	3.1	—

(9) 被虐待被害者からみた虐待者の続柄

	父	母	兄弟	姉妹	夫	妻	息子	娘	婿	祖母	その他	合計
人数	26	41	20	4	19	2	6	5	2	1	4	130
%	20.0	31.6	15.4	3.1	14.6	1.5	4.6	3.8	1.5	0.8	3.1	—

(10) 虐待の発生要因や状況(重複あり)

虐待者が虐待と認識していない	43件	36.8%
家庭における被虐待者と虐待者の虐待発生までの人間関係	37件	31.6%
虐待者の介護疲れ	35件	29.9%
被虐待者の介護度や支援度の高さ	31件	26.5%
虐待者の知識や情報の不足	27件	23.1%
虐待者の介護等に関する強い不安や悩み・介護ストレス	22件	18.8%
虐待者が過去に虐待を行ったことがある・経済的困窮	各19件	各16.2%
虐待者の障害、精神疾患や強い抑うつ状態	17件	14.5%

%は被虐待被害者数117人に対する割合

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

3. 令和元年度 都内における障害者福祉施設従事者等による障害者虐待の状況

【障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律第20条の規定に基づく公表】

(平成31年4月1日から令和元年3月31日まで) 東京都保健福祉局

(1) 相談・通報・届出の状況

相談・通報・届出件数	276 件
虐待を受けたと判断された事例数	37 件

※ 「相談・通報・届出件数」は、区市町村及び都における受付件数であり、同一事例について重複している場合がある。

※ 「虐待を受けたと判断された事例数」は、都内の施設・事業所に関する事例である。

(2) 虐待を受けたと判断された事例における虐待行為の類型

※ 1件の事例

に対し、複数の虐待行為の類型があった場合も含むため、合計件数は「虐待を受けたと判断された事例数」と一致しない。

身体的虐待	21 件
性的虐待	3 件
心理的虐待	15 件
放棄・放置（ネグレクト）	4 件
経済的虐待	2 件

(3) 虐待があった障害者福祉施設等の種別

障害者支援施設	10 件
共同生活援助	8 件
生活介護	5 件
放課後等デイサービス	4 件
就労継続支援B型	3 件
移動支援事業	2 件
行動援護、療養介護、就労継続支援A型、 短期入所、地域活動支援センター経営事業	1 件

(4) 被虐待障害者の性別

	男	女	合計
人数	38	6	44
構成割合(%)	86.4	13.6	—

(5) 被虐待障害者の年齢

	～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	合計
人数	9	6	9	10	4	4	2	44
%	20.5	13.6	20.5	22.7	9.1	9.1	4.5	—

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

(6) 被虐待被害者の障害種別（重複あり）

	身体障害	知的障害	精神障害 (発達障害を除く)	発達障害	難病等
人数	11	41	0	1	0

※ 1人の被虐待被害者に対し、複数の障害種別があった場合、それぞれの該当項目に重複して計上されている。

(7) 虐待を行った障害者福祉施設従事者等（以下「虐待者」）の職種

	設置者／経営者	管理者	看護職員	サービス提供責任者	相談支援専門員	生活支援員	世話人	就労支援員	指導員	児童指導員	その他従事者	不明
件数	3	3	2	1	1	15	3	2	1	1	4	1

(8) 虐待を行った「虐待者」の年齢

	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不明	合計
人数	4	6	5	9	7	6	37
%	10.8	16.2	13.5	24.4	18.9	16.2	—

(9) 虐待の発生要因（重複あり）

教育・知識・介護技術等に関する問題	20件	54.1%
職員のストレスや感情コントロールの問題	19件	51.4%
倫理観や理念の欠如	14件	37.8%
虐待を助長する組織風土や職員間の関係性の悪さ	8件	21.6%
人員不足や人員配置の問題及び関連する多忙さ	12件	32.4%
その他	0件	0.0%
合計	73件	—

※ 構成割合（%）は、虐待判断事例数45か所に対するもの

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

4. 虐待を発見した際の、通報義務と通報者の保護

◆ 養護者による障害者虐待に係る通報等

(第七条)

- 一 養護者による障害者虐待を受けたと思われる障害者を発見した者は、速やかに、これを市町村に通報しなければならない。
- 二 刑法（明治四十年法律第四十五号）の秘密漏示罪の規定その他の守秘義務に関する法律の規定は、前項の規定による通報をすることを妨げるものと解釈してはならない。

(第八条)

市町村が通報又は届出を受けた場合においては、通報又は届出を受けた市町村の職員は、その職務上知り得た事項であつて通報又は届出をした者を特定させるものを漏らしてはならない。

◆ 障害者福祉施設従事者等による障害者虐待に係る通報等

(第十六条)

- 一 障害者福祉施設従事者等による障害者虐待を受けたと思われる障害者を発見した者は、速やかに、これを市町村に通報しなければならない。
- 二 障害者福祉施設従事者等による障害者虐待を受けた障害者は、その旨を市町村に届け出ることができる。
- 三 刑法の秘密漏示罪の規定その他の守秘義務に関する法律の規定は、第一項の規定による通報（虚偽であるもの及び過失によるものを除く。次項において同じ。）をすることを妨げるものと解釈してはならない。
- 四 障害者福祉施設従事者等は、第一項の規定による通報をしたことを理由として、解雇その他不利益な取扱いを受けない。

☆（公益通報者保護法の保護規程に則る）

降格、減給、訓告、自宅待機命令、給与上の差別、退職の強要、専ら雑務に従事させる、退職金の減給・没収等

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

◆ 使用者による障害者虐待の防止等のための措置

(第二十一条)

障害者を雇用する事業主は、労働者の研修の実施、当該事業所に使用される障害者及びその家族からの苦情の処理の体制の整備その他の使用者による障害者虐待の防止等のための措置を講ずるものとする。

◆ 使用者による障害者虐待に係る通報等

(第二十二条)

- 一 使用者による障害者虐待を受けたと思われる障害者を発見した者は、速やかに、これを市町村又は都道府県に通報しなければならない。
 - 二 使用者による障害者虐待を受けた障害者は、その旨を市町村又は都道府県に届け出ることができる。 ☆都道府県 → 労働局へ報告。監督権限等の行使、措置等の公表
 - 三 刑法の秘密漏示罪の規定その他の守秘義務に関する法律の規定は、第一項の規定による通報（虚偽であるもの及び過失によるものを除く。次項において同じ。）をすることを妨げるものと解釈してはならない。
 - 四 労働者は、第一項の規定による通報又は第二項の規定による届出（虚偽であるもの及び過失によるものを除く。）をしたことを理由として、解雇その他不利益な取扱いを受けない。
-

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

5. 虐待の種類、具体例と虐待行為に対する刑事罰

引用)「障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き」

令和2年10月 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部

(表-1) 障害者福祉施設従事者等による障害者虐待類型(例)

区分	具体例
(1) 身体的虐待 刑法 第199条 殺人罪 第204条 傷害罪 第208条 暴行罪 第220条 逮捕・監禁罪	① 暴力的行為 【具体的な例】 <ul style="list-style-type: none"> ・平手打ちをする。つねる。殴る。蹴る。 ・ぶつかって転ばせる。 ・刃物や器物で外傷を与える。 ・入浴時、熱い湯やシャワーをかけてやけどをさせる。 ・本人に向けて物を投げつけたりする。 など ② 本人の利益にならない強制による行為、代替方法を検討せずに障害者を乱暴に扱う行為 【具体的な例】 <ul style="list-style-type: none"> ・医学的診断や個別支援計画等に位置づけられておらず、身体的苦痛や病状悪化を招く行為を強要する。 ・介助がしやすいように、職員の都合でベッド等へ抑えつける。 ・車いすやベッド等から移動させる際に、必要以上に身体を高く持ち上げる。 ・食事の際に、職員の都合で、本人が拒否しているのに口に入れて食べさせる、飲み物を飲ませる。 など ③ 正当な理由のない身体拘束 【具体的な例】 <ul style="list-style-type: none"> ・車いすやベッドなどに縛り付ける ・手指の機能を制限するためにミトン型の手袋を付ける ・行動を制限するために介護衣（つなぎ服）を着せる ・職員が自分の身体で利用者を押さえつけて行動を制限する ・行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる ・自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

◆ 身体拘束 緊急やむを得ない場合の対応 ～3つの要件（例外3原則ともいう）～

「障害者総合支援法に基づく指定障害福祉サービス事業（障害者 支援施設）等の人員、設備及び運営に関する基準 第48条（身体拘束の禁止）」

（１） 切迫性

本人や他の利用者等の生命・身体が危険にさらされる可能性が著しく高い。

（拘束が日常生活に与えるデメリットと、拘束が必要なメリット、生命・身体の危険の可能性の高さを確認する必要あり）

（２） 非代替性

身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替する方法がない。

（全ての方法の可能性を検討し、生命・身体を保護する代替手法がないことを複数のスタッフで確認のうえ最も制限の少ない方法をとる）

（３） 一時性

身体拘束その他の行動制限が一時的なものである。

（本人の状態像に応じ最も短い拘束時間）

◆ 手続き

（１） 3つの要件の確認・判断は、職員個人ではなくチームで行う。

関係者が幅広く参加したカンファレンスや「身体拘束廃止委員会」等で判断する体制をとり、記録に残す。

（２） 本人や家族に対し、十分に説明し、理解を求める。

身体拘束の内容、目的、理由、実施した時間、時間帯、期間など

（３） 状況を常に 観察・再検討。

要件に該当しなくなった場合にはただちに身体拘束を解除する。

◆ 身体拘束廃止未実施減算の創設（平成30年度障害福祉サービス等報酬改定）

- ・ 身体拘束等の適正化を図るため、身体拘束等に係る記録をしていない場合について、基本報酬を減算。
- ・ 追加要件
 - 「身体拘束を適正化する会議を3か月に1度以上開催」
 - 「適正化する指針を整備」
 - 「適正化に向けた研修を開催」等

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

◆ 身体拘束がもたらす弊害

<p>(1) 身体的弊害</p>	<p>① 外的弊害 身体機能の低下（関節拘縮、筋力低下）、 圧迫部位の褥瘡の発生</p> <p>② 内的弊害 食欲低下、心肺機能・感染症への抵抗力の低下</p> <p>③ 車いすに拘束して無理な立ち上がりによる転倒事故、 ベッドの手すりの乗り越えによる転落事故、 拘束具による窒息など、大事故を発生させる危険</p>
<p>(2) 精神的弊害</p>	<p>① 不安、怒り、屈辱、諦めといった精神的苦痛 人間としての尊厳を侵す</p> <p>② 精神症状や認知症の進行、パニックやせん妄の頻発を もたらす恐れ</p> <p>③ 家族の精神的苦痛。親や配偶者が拘束される姿を見て、 混乱、後悔、罪悪感にさいなまれる</p> <p>④ スタッフが自身の行う支援に誇りが持てず、士気が低下</p>
<p>(3) 社会的弊害</p>	<p>① 施設・事業所などへの社会的不信、偏見</p> <p>② 心身機能の低下によるQOLの低下</p> <p>③ 医療的処置を生じさせ経済的影響</p>

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

(表-1) 障害者福祉施設従事者等による障害者虐待類型(例) つづき

区分	具体例
(2) 性的虐待 刑法 第176条 強制わいせつ罪 第177条 強制性交等罪 第178条 準強制わいせつ罪、 準強制性交等罪	○あらゆる形態の性的な行為又はその強要 【具体的な例】 <ul style="list-style-type: none"> ・キス、性器等への接触、性交 ・性的行為を強要する。 ・本人の前でわいせつな言葉を発する、又は会話する。性的な話を強要する(無理やり聞かせる、無理やり話させる)。 ・わいせつな映像や写真をみせる。 ・本人を裸にする、又はわいせつな行為をさせ、映像や写真に撮る。撮影したものを他人に見せる。 ・更衣やトイレ等の場面のぞいたり、映像や画像を撮影する。 ・排泄や着替えの介助がしやすいという目的で、下(上)半身を裸にしたり、下着のままで放置する。 ・人前で排泄をさせたり、おむつ交換をしたりする。 またその場面を見せないための配慮をしない。 など

区分	具体例
(3) 心理的虐待 刑法 第222条 脅迫罪、 第223条 強要罪 第230条 名誉毀損罪 第231条 侮辱罪	① 威嚇的な発言、態度 【具体的な例】 <ul style="list-style-type: none"> ・怒鳴る、罵る。 ・「ここ(施設等)にいらなくなるよ」「追い出す」などと言ひ脅す。 ・「給料もらえないですよ」「好きなもの買えなくなりますよ」などと威圧的な態度を取る。 など ② 侮辱的な発言、態度 【具体的な例】 <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の失敗や食べこぼしなどを嘲笑する。 ・日常的にからかったり、「バカ」「あほ」「死ね」など侮蔑的なことを言う。 ・排泄介助の際、「臭い」「汚い」などと言う。 ・子ども扱いするような呼称で呼ぶ。 ・本人の意思に反して呼び捨て、あだ名などで呼ぶ。 など ③ 障害者や家族の存在や行為、尊厳を否定、無視するような発言、態度 【具体的な例】 <ul style="list-style-type: none"> ・無視する。 ・「意味もなく呼ばないで」「どうしてこんなことができないの」などと言う。

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

	<ul style="list-style-type: none"> ・他の利用者に障害者や家族の悪口等を言いふらす。 ・話しかけ等を無視する。 ・障害者の大切にしているものを乱暴に扱う、壊す、捨てる。 ・したくてもできないことを当てつけにやってみせる (他の利用者にやらせる)。など <p>④ 障害者の意欲や自立心を低下させる行為</p> <p>【具体的な例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレを使用できるのに、職員の都合を優先し、本人の意思や状態を無視しておむつを使う。 ・自分で食事ができるのに、職員の都合を優先し、本人の意思や状態を無視して食事の全介助をする、職員が提供しやすいように食事を混ぜる。 ・自分で服薬ができるのに、食事に薬を混ぜて提供する。 など <p>⑤ 交換条件の提示</p> <p>【具体的な例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これができたら外出させてあげる」「買いたいならこれをしてからにしてください」などの交換条件を提示する。 <p>⑥ 心理的に障害者を不当に孤立させる行為</p> <p>【具体的な例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の家族に伝えてほしいという訴えを理由なく無視して伝えない。 ・理由もなく住所録を取り上げるなど、外部との連絡を遮断する。 ・面会者が訪れても、本人の意思や状態を無視して面会させない。 ・その利用者以外の利用者だけを集めて物事を決める、行事を行う。 など <p>⑦ その他著しい心理的外傷を与える言動</p> <p>【具体的な例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすでの移動介助の際に、速いスピードで走らせ恐怖感を与える。 ・自分の信仰している宗教に加入するよう強制する。 ・利用者の顔に落書きをして、それをカメラ等で撮影し他の職員に見せる。 ・利用者の前で本人の物を投げたり蹴ったりする。 ・本人の意思に反した異性介助を繰り返す。 ・浴室脱衣所で、異性の利用者を一緒に着替えさせたりする。 など
--	--

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

区分	具体例
<p>(4) 介護・世話の 放棄・放任</p> <p>刑法 第218条 保護責任者 遺棄罪</p>	<p>① 必要とされる支援や介助を怠り、障害者の生活環境・身体や精神状態を悪化させる行為</p> <p>【具体的な例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴しておらず異臭がする、排泄の介助をしない、髪・ひげ・爪が伸び放題、汚れのひどい服や破れた服を着せている等、日常的に著しく不衛生な状態で生活させる。 ・褥瘡（床ずれ）ができるなど、体位の調整や栄養管理を怠る。 ・おむつが汚れている状態を日常的に放置している。 ・健康状態の悪化をきたすほどに水分や栄養補給を怠る。 ・健康状態の悪化をきたすような環境（暑すぎる、寒すぎる等）に長時間置かせる。 ・室内にごみが放置されている、鼠やゴキブリがいるなど劣悪な環境に置かせる。など <p>② 障害者の状態に応じた診療や支援を怠ったり、医学的診断を無視した行為</p> <p>【具体的な例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療が必要な状況にも関わらず、受診させない。あるいは救急対応を行わない。 ・処方通りの服薬をさせない、副作用が生じているのに放置している、処方通りの治療食を食べさせない。 ・本人の嚥下できない食事を提供する。 など <p>③ 必要な用具の使用を限定し、障害者の要望や行動を制限させる行為</p> <p>【具体的な例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動に車いすが必要であっても使用させない。 ・必要なめがね、補聴器、補助具等があっても使用させない。 など <p>④ 障害者の権利や尊厳を無視した行為又はその行為の放置</p> <p>【具体的な例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の利用者に暴力を振るう障害者に対して、何ら予防的手立てをしていない。 ・話しかけ等に対し「ちょっと待って」と言ったまま対応しない。 など <p>⑤ その他職務上の義務を著しく怠ること</p>

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

区分	具体例
(5) 経済的虐待 刑法 第235条 窃盗罪 第246条 詐欺罪 第249条 恐喝罪 第252条 横領罪	<p>○ 本人の同意（表面上は同意しているように見えても、本心からの同意かどうかを見極める必要がある。以下同様。）なしに財産や金銭を使用し、本人の希望する金銭の使用を理由なく制限すること。</p> <p>【具体的な例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人所有の不動産等の財産を本人に無断で売却する。 ・ 年金や賃金を管理して渡さない。 ・ 年金や預貯金を無断で使用する。 ・ 本人の財産を無断で運用する。 ・ 事業所、法人に金銭を寄付・贈与するよう強要する。 ・ 本人の財産を、本人が知らない又は支払うべきではない支払に充てる。 ・ 金銭・財産等の着服・窃盗等（障害者のお金を盗む、無断で使う、処分する、無断流用する、おつりを渡さない。）。 ・ 立場を利用して、「お金を貸してほしい」と頼み、借りる。 ・ 本人に無断で親族にお金を渡す、貸す。 ・ 日常的に使用するお金を不当に制限する、生活に必要なお金を渡さない。 など

6. 虐待の背景

(1) 養護者（家族、親族、同居人）

● 疲労・負担

長期間にわたる疲れ。虐待者にとって過度の負担になっていた。

● 精神疾患や障害

虐待者自身の精神疾患や知的障害。被虐待者を受容できていない。

● 虐待を受けていた経緯

虐待者が幼少期に虐待を受けていた経緯があり、精神的に不安定。

● 短気で暴力的な性格傾向

虐待者が、元来、短気で暴力的な性格傾向にあり、現実的な思考や対応が困難。
長期にわたり家族内でトラブルを起こしている。

● 理解力・判断力の欠如

虐待者の理解力・判断力の欠如。被虐待者が危険な状態にもかかわらず放置
「服薬は身体に悪い」と服薬させないなど。

(2) 施設・事業者、従事者

● 法人、施設・事業所の支援理念の欠如、無知● 組織体制・整備の遅れ● 職員の行動障害、対人援助技術、虐待、人権侵害などに対する知識、技術不足

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

7. 早期発見に向けたチェックリストの活用

(1) 養護者、使用者による虐待の早期発見

～「市町村・都道府県における障害者虐待の防止と対応」（平成 24 年 10 月 厚生労働省）より抜粋～

障害者虐待発見チェックリスト

虐待していても本人にはその自覚のない場合や虐待されていても障害者自らＳＯＳを訴えないことがよくありますので、小さな兆候を見逃さないことが大切です。複数の項目に当てはまる場合は疑いがそれだけ濃いと判断できます。これらはあくまで例示なので、完全に当てはまらなくても虐待がないと即断すべきではありません。類似の「サイン」にも注意深く目を向ける必要があります。

<身体的虐待のサイン>

- ☐ 身体に小さな傷が頻繁にみられる
- ☐ 太ももの内側や上腕部の内側、背中などに傷やみみずばれがみられる
- ☐ 回復状態がさまざまに違う傷、あざがある
- ☐ 頭、顔、頭皮などに傷がある
- ☐ お尻、手のひら、背中などに火傷や火傷の跡がある
- ☐ 急におびえたり、こわがったりする
- ☐ 「こわい」「嫌だ」と施設や職場へ行きたがらない
- ☐ 傷やあざの説明のつじつまが合わない
- ☐ 手をあげると、頭をかばうような格好をする
- ☐ おびえた表情をよくする、急に不安がる、震える
- ☐ 自分で頭をたたく、突然泣き出すことがよくある
- ☐ 医師や保健、福祉の担当者に相談するのを躊躇する
- ☐ 医師や保健、福祉の担当者に話す内容が変化し、つじつまが合わない

<性的虐待のサイン>

- ☐ 不自然な歩き方をする、座位を保つことが困難になる
- ☐ 肛門や性器からの出血、傷がみられる
- ☐ 性器の痛み、かゆみを訴える
- ☐ 急におびえたり、こわがったりする
- ☐ 周囲の人の体をさわようになる
- ☐ 卑猥な言葉を発するようになる
- ☐ ひと目を避けたがる、一人で部屋にいたがるようになる
- ☐ 医師や保健、福祉の担当者に相談するのを躊躇する
- ☐ 眠れない、不規則な睡眠、夢にうなされる
- ☐ 性器を自分でよくいじるようになる

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】**<心理的虐待のサイン>**

- ☐ かきむしり、かみつきなど、攻撃的な態度がみられる
- ☐ 不規則な睡眠、夢にうなされる、眠ることへの恐怖、過度の睡眠などがみられる
- ☐ 身体を萎縮させる
- ☐ おびえる、わめく、泣く、叫ぶなどパニック症状を起こす
- ☐ 食欲の変化が激しい、摂食障害（過食、拒食）がみられる
- ☐ 自傷行為がみられる
- ☐ 無力感、あきらめ、なげやりな様子になる、顔の表情がなくなる
- ☐ 体重が不自然に増えたり、減ったりする

<放棄・放置のサイン>

- ☐ 身体から異臭、汚れがひどい髪、爪が伸びて汚い、皮膚の潰瘍
- ☐ 部屋から異臭がする、極度に乱雑、ベタベタした感じ、ゴミを放置している
- ☐ ずっと同じ服を着ている、汚れたままのシーツ、濡れたままの下着
- ☐ 体重が増えない、お菓子しか食べていない、よそではガツガツ食べる
- ☐ 過度に空腹を訴える、栄養失調が見て取れる
- ☐ 病気やけがをしても家族が受診を拒否、受診を勧めても行った気配がない
- ☐ 学校や職場に出てこない
- ☐ 支援者に会いたがらない、話したがらない

<経済的虐待のサイン>

- ☐ 働いて賃金を得ているなのに貧しい身なりでお金を使っている様子がみられない
- ☐ 日常生活に必要な金銭を渡されていない
- ☐ 年金や賃金がどう管理されているのか本人が知らない
- ☐ サービスの利用料や生活費の支払いができない
- ☐ 資産の保有状況と生活状況との落差が激しい
- ☐ 親が本人の年金を管理し遊興費や生活費に使っているように思える

※「障害者虐待防止マニュアル」（NPO法人 PandA-J）を参考に作成

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

（２）セルフネグレクト（自己による放任）の早期発見

～「市町村・都道府県における障害者虐待の防止と対応」（平成 24 年 10 月 厚生労働省）より抜粋～

【注】セルフネグレクト（自己による放任）について

NPO法人 PandA-J の「障害者虐待防止マニュアル」のチェックリストには以下のとおり「セルフネグレクトのサイン」が挙げられています。セルフネグレクト（自己による放任）については、障害者虐待防止法に明確な規定がありませんが、このようなサインが認められれば、支援が必要な状態である可能性が高いので、市町村の障害者の福祉に関する事務を所管している部局等は、相談支援事業所等の関係機関と連携して対応をする必要があります。

<セルフネグレクトのサイン>

- ☐ 昼間でも雨戸が閉まっている
- ☐ 電気、ガス、水道が止められていたり、新聞、テレビの受信料、家賃の支払いが滞っている
- ☐ ゴミが部屋の周囲に散乱している、部屋から異臭がする
- ☐ 郵便物がたまっただま放置されている
- ☐ 野良猫のたまり場になっている
- ☐ 近所の人や行政が相談に乗ろうとしても「いいよ、いいよ」「放っておいてほしい」と遠慮し、あきらめの態度がみられる

（３）障害者福祉施設従事者等による障害者虐待の予防および早期発見

- 厚生労働省「障害者福祉施設・事業所における障害者虐待防止と対応の手引き」平成 24 年 9 月

「虐待防止チェックリスト 職員用（入所施設・通所施設）」

「虐待防止チェックリスト 施設用」

- 全社協「障害者の虐待防止に関する検討委員会」平成 23 年 3 月版

「職員セルフチェックリスト」

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

虐待防止チェックリスト 職員用（入所施設）

1. 入所者への体罰など	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①入所者に対して殴る、蹴る、その他けがをさせるような行為を行ったことがある。				
②入所者に対して、身体的拘束や長時間正座・直立等の肉体的苦痛を与えたことがある。				
③入所者に対して、食事を抜くなどの人間の基本的欲求に関わる罰を与えたことがある。				
④入所者に対して、強制的に髪を切るなどの精神的苦痛を与えたことがある。				
⑤入所者に対する他の職員の体罰を容認したことがある。				
2. 入所者への差別	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①入所者を子ども扱いするなど、その人の年齢にふさわしくない接し方をしたことがある。				
②入所者の障がいの程度、状態、能力、性、年齢等で差別したことがある。				
③障がいにより克服困難なことを、入所者本人の責めに帰すような発言をしたことがある。				
④入所者の言葉や歩き方等の真似をしたことがある。				
⑤入所者の行為を嘲笑したり、興味本位で接したことがある。				
3. 入所者に対するプライバシーの侵害	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①職務上知り得た入所者個人の情報を他に漏らしたことがある。				
②入所者の同意を事前に得ることなく、郵便物等の開封、所持品を確認したことがある。				
③入所者の了解なしに居室、寝室に入ったことがある。				
④・a(男性職員が)女性入所者の入浴、衣服の着脱、排泄、生理等の介助をしたことがある。				
④・b(女性職員が)男性入所者の入浴、衣服の着脱、排泄等の介助をしたことがある。				
⑤入所者本人や家族の了解を得ずに、本人の写真や制作した作品を展示したことがある。				
4. 入所者の人格無視	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①入所者を呼び捨てやあだ名、子どものような呼称で呼んだことがある。				
②入所者に対して、威圧的な態度や命令口調で話したことがある。				
③入所者の訴えに対して、無視や拒否をするような行為をしたことがある。				
④入所者を長時間待たせたり、放置したりしたことがある。				
⑤担当専門医の指示によらず職員自らの判断で薬物を使用したことがある。				
5. 入所者への強要制限	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①入所者に対して、わいせつな発言や行為をしたことがある。				
②入所者の作業諸活動に対して、いたずらにノルマを課したことがある。				
③入所者に嫌悪感を抱かせるような作業・訓練などを強要したことがある。				
④日用品等の購入を制限したことがある。				
⑤家族・友人等への電話や手紙など連絡を制限したことがある。				
⑥自由な帰省、面会、外出を一方向的に制限したことがある。				

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

虐待防止チェックリスト 職員用（通所施設）

1. 通所者への体罰など	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①通所者に対して殴る、蹴る、その他けがをさせるような行為を行ったことがある。				
②通所者に対して、身体的拘束や長時間正座、直立等の肉体的苦痛を与えたことがある。				
③通所者に対して、食事・おやつを抜くなどの人間の基本的欲求に関わる罰を与えたことがある。				
④通所者に対する他の職員の体罰を容認したことがある。				
2. 通所者への差別	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①通所者を子ども扱いするなど、その人の年齢にふさわしくない接し方をしたことがある。				
②通所者の障がいの程度、状態、能力、性、年齢等で差別したことがある。				
③障がいにより克服困難なことを、通所者本人の責めに帰すような発言をしたことがある。				
④通所者の言葉や歩き方等の真似をしたことがある。				
⑤通所者の行為を嘲笑したり、興味本位で接したことがある。				
3. 通所者に対するプライバシーの侵害	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①職務上知り得た通所者個人の情報を他に漏らしたことがある。				
②通所者の同を事前に得ることなく、所持品等を確認したことがある。				
③・a(男性職員が) 女性通所者の衣服の着脱、排泄、生理等の介助をしたことがある。				
③・b(女性職員が) 男性通所者の衣服の着脱、排泄等の介助をしたことがある。				
④通所者本人や家族の了解を得ずに、本人の写真や制作した作品を展示したことがある。				
4. 通所者の人格無視	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①通所者を呼び捨てやあだ名、子どものような呼称で呼んだことがある。				
②通所者に対して、威圧的な態度や命令口調で話したことがある。				
③通所者の訴えに対して、無視や拒否をするような行為をしたことがある。				
④通所者を長時間待たせたり、放置したりしたことがある。				
⑤担当専門医の指示によらず職員自らの判断で薬物を使用したことがある。				
5. 通所者への強要制限	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①通所者に対して、わいせつな発言や行為をしたことがある。				
②通所者の作業諸活動に対して、いたずらにノルマを課したことがある。				
③通所者に嫌悪感を抱かせるような作業訓練などを強要したことがある。				
④家族友人等への電話や手紙など連絡を制限したことがある。				

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

虐待防止チェックリスト 施設用

1. 規定、マニュアルやチェックリスト等の整備	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①倫理綱領、職員行動規範を定め、職員への周知ができています。				
②虐待防止マニュアルやチェックリスト等について、職員に周知徹底すると共に活用している。				
③緊急やむを得ない場合の身体的拘束等の手続き、方法を明確にし、利用者や家族に事前に説明を行い、同意を得ている。				
④個別支援計画を作成し、適切な支援を実施している。				
⑤利用者の家族から情報開示を求められた場合は、いつでも応じられるようにしている。				
2. 風通しの良い職場環境づくりと職員体制	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①職員会議等で情報の共有と職員間の意思疎通が図られている。				
②上司や職員間のコミュニケーションが図られている。				
③適正な職員配置ができています。				
3. 職員への意識啓発と職場研修の実施	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①職員への人権等の意識啓発が行われている。				
②職場での人権研修等が開催されている。				
③職員の自己研さんの場が設けられている。				
4. 利用者の家族との連携	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①利用者の家族等と定期的に連絡調整が図られている。				
②利用者の家族と支援目標が共有できている。				
③職員として利用者の家族から信頼を得られている。				
5. 外部からのチェック	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①虐待の防止や権利擁護について、外部の専門家による職員の評価、チェックを受けている。				
②施設事業所の監査において、虐待防止に関わるチェック等を実施している。				
③地域ボランティアの受け入れを積極的に行っている。				
④実習生の受け入れや職場見学を随時受けている。				
6. 苦情、虐待事案への対応等の体制整備	よく ある	時々 ある	たまに ある	ない
①虐待防止に関する責任者を定めている。				
②虐待防止や権利擁護に関する委員会を施設内に設置している。				
③職員の悩みを相談できる相談体制を整えている。				
④施設内で虐待事案の発生時の対処方法、再発防止策等を具体的に文章化している。				

引用)「障害者福祉施設・事業所における障害者虐待防止と対応の手引き」(平成24年9月 厚生労働省)

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

職員セルフチェックリスト

《チェック項目》	チェック欄
1. 利用者への対応、受答え、挨拶等は丁寧に行うよう日々、心がけている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
2. 利用者の人格を尊重し、接し方や呼称に配慮している。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
3. 利用者への説明はわかり易い言葉で丁寧に行い、威圧的な態度、命令口調にならないようにしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
4. 職務上知りえた利用者の個人情報については、慎重な取扱いに留意している。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
5. 利用者の同意を事前に得ることなく、郵便物の開封、所持品の確認、見学者等の居室への立ち入りなどを行わないようにしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
6. 利用者の意見、訴えに対し、無視や否定的な態度をとらないようにしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
7. 利用者を長時間待たせたりしないようにしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
8. 利用者の嫌がることを強要すること、また、嫌悪感を抱かせるような支援、訓練等を行わないようにしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
9. 危険回避のための行動上の制限が予想される事項については、事前に本人、家族に説明し同意を得るとともに、方法を検討し実施にあたっては複数の職員によるチームアプローチをとっている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
10. 利用者に対するサービス提供に関わる記録書類（ケース記録等）について、対応に困難が生じた事柄や不適切と思われる対応をやむを得ず行った場合等の状況も適切に記入している。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
11. ある特定の利用者に対して、ぞんざいな態度・受答えをしてしまうことがある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
12. ある特定の職員に対して、ぞんざいな態度・受答えをしてしまうことがある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
13. 他の職員のサービス提供や利用者への対応について問題があると感じることがある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
14. 上司と日々のサービス提供に関わる相談を含め、コミュニケーションがとりやすい雰囲気である。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
15. 職員と日々のサービス提供に関わる相談を含め、コミュニケーションがとりやすい雰囲気である。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
16. 他の職員が、利用者に対してあなたが虐待と思われる行為を行っている場面にでくわしたことがある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
17. 他の職員が、利用者に対してあなたが虐待と思われる行為を行っている場면을容認したこと（注意できなかったこと）がある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
18. 最近、特に利用者へのサービス提供に関する悩みを持ち続けている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
19. 最近、特に仕事にやる気を感じないことがある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
20. 最近、特に体調がすぐれないと感じることがある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

引用) 全社協「障害者の虐待防止に関する検討委員会」平成 23 年 3 月版

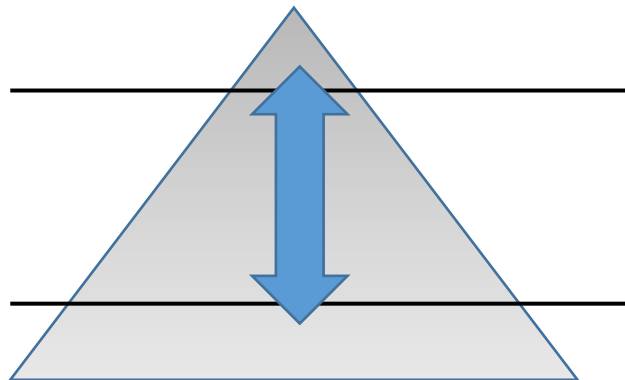
【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

8. 考え方

◆ 2つの視点

- ① 気付かれてない虐待
- ② 判断に迷うグレーゾーン

◆ 「不適切な支援」を底辺とする障害者虐待



◆ 日頃行われ、見過ごされている「不適切な支援」はないか？

- ① 障害者施設従事者等による障害者虐待は、
「不適切な支援」の問題から連続的に考える必要がある
- ② 虐待が顕在化する前には、表面化していない虐待や、
その周辺の「グレーゾーン」の行為がある
- ③ ささいな「不適切な支援」の存在が放置されることで、
蓄積・エスカレートする状況がある

【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

9. 障害者虐待の未然の防止（厚生労働省）

（１）職員の人権意識の向上

- ① 職員が自らの行為が虐待などの権利侵害に当たることを自覚していない場合があることから、掲示物を施設内の見やすい場所に掲示し、職員の自覚・自省を促す。
 なお、掲示物については、職員で話し合っ定期的に新しいものに張り替えるなど、関心が薄れないよう工夫する。
- ② 倫理綱領、行動規範等を定め、職員に周知徹底する。
- ③ 普段から研修などを通して、職員の人権意識を高める。

（２）職員の知識や技術の向上

- ① 研修などを通して、職員の知識や技術、特に行動障害などの特別な支援を必要とする障害者（児）の支援に関する知識 や技術の向上を図る。
 （例）「強度行動障害支援者養成研修」
- ② 個々の障害者（児）の状況に応じた個別支援計画を作成するなどして、適切な支援を行う。
- ③ 職員が支援に当たっての悩みや苦労を相談できる体制を整える他、職員が利用者の権利擁護に取り組める環境を整備する。
 （平成17年10月20日 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知）

（３）苦情解決制度の利用

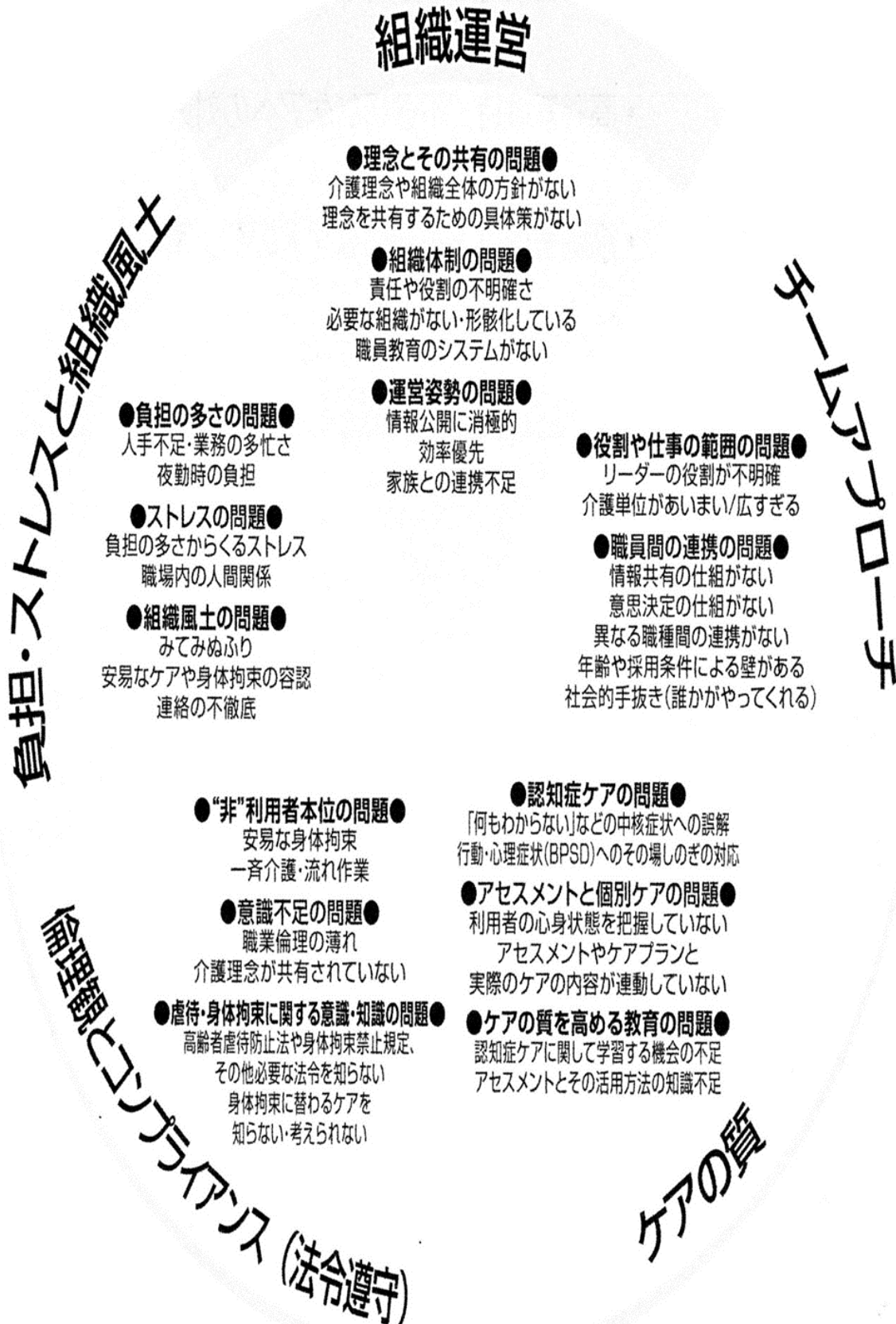
苦情解決制度については、社会福祉法において社会福祉事業の経営者に対して、利用者等からの苦情の適切な解決に努めるべきこととされており、更に施設運営者と中立的立場にある第三者委員を積極的に活用することなどにより、障害者（児）虐待を未然に防止する見地から、苦情解決制度の実効性を確保すること。

（４）サービス評価などの利用

「福祉サービス第三者評価事業に関する指針について」等を参考にして利用者の権利擁護がなされるよう積極的に取り組むこと。

（５）成年後見制度の利用

自ら権利を擁護することに困難を抱える障害者については、成年後見制度を活用して権利擁護を行っていくことが重要である。



【障がい者虐待防止研修 ～日々の支援は適切か～】

(参考文献・引用文献)

1. 「障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き」厚生労働省 社会・援護局
2. 「障害者虐待対応の手引き」全国社会福祉協議会
3. 「新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」介護福祉士養成講座編集委員会 編集/中央法規
4. 「福祉サービスにおける危機管理（リスクマネジメント）に関する取組み指針 ～利用者の笑顔と満足を求めて～」厚生労働省
5. 「身体拘束ゼロへの手引き」厚生労働省「身体拘束ゼロ作戦推進会議」発行
6. 「障害者虐待防止マニュアル」NPO 法人 PandA-J (Protection and Advocacy)
7. 「介護現場のための高齢者虐待防止教育システム 施設・事業所における 高齢者虐待防止学習テキスト」（平成 20 年度 老人保健健康増進等事業） 認知症介護研究・研修仙台センター